

## 生産と所得 1. 生産物の意味

GDP は、最終生産物の価値、または附加価値の合計である。

## I. 基礎概念の復習

## A. 財と用役（サービス）

## 1. 定義

- a. 欲求充足にとって有用なもの
- b. 物質であるものと、働きであるもの

## 2. 財の分類

- a. 単用財と耐用財：1回の使用で使いつくされるか否か
- b. 自由財と経済財：人々の欲求に対して十分豊富か否か

## B. 量の測定

## 1. フロー量：時間の長さに関連して大きさが定まる量

- a. 分かりやすい例  
水槽に流れ込む水の量，移動する車の進む距離
- b. 経済学における例  
生産量，消費量，投資量，所得

## 2. ストック量：時間の長さに関連せずに大きさが定まる量

- a. 分かりやすい例  
水槽に貯まった水の量，車の位置
- b. 経済学における例  
資本ストック，貨幣流通量，資産額，人口

## C. 生産

交換を通じて他の経済単位の欲求を充足する行為

any activity directed to the satisfaction of other people's wants through exchange.

[John R. Hicks (1952), p. 21.]

- \* この定義は、普通に漠然と考えられる「生産」の概念より、ある面で広く、ある面で狭い。生産とは、財を造り出すことだけではない。財の移動（運輸）、仲介（商業）も、この意味で生産である。さらに、人のために役立つ労働をすることも生産である。他方、一つの家計内で消費されるために財を造る行為、また家計内の労働は、この意味では生産ではない。
- \* 「生産」をもう少し広く捉え、欲求充足のための準備の行為とする定義もある。

## II. 国民所得

## A. 閉じた経済

## 1. 基礎としての GNP

- a. GNP に含まれる財と用役
  - (1) 経済財
  - (2) 取引の対象

## b. 最終生産物と中間生産物

## 生産と所得の模型

	総産出	生産部門 I	生産部門 II	最終生産物
生産部門 I	$X_1$	$X_{11}$	$X_{12}$	$F_1$
生産部門 II	$X_2$	$X_{21}$	$X_{22}$	$F_2$
附加価値		$V_1$	$V_2$	GDP

## (1) 中間生産物の意味

- (a) 単位観察期間
- (b) 生産過程で使いつくされる単用財

## (2) 附加価値との関係

- (a) 附加価値とは総産出と中間生産物の価値の差である。

$$V_i = X_i - (X_{1i} + X_{2i})$$

- (b) 附加価値の総和は最終生産物の価値の総和に等しい。

$$V_1 + V_2 = F_1 + F_2$$

## 2. GNP と NI の関係

## a. 生産された耐用財の価値の減耗

- (1) 能率の劣化
- (2) 耐用年数の短縮（物理的原因と経済的原因）

## b. 所得の概念：国民純生産 NNP

- (1) 所得とは、再生産過程の中で、純粋にどれだけの価値が生み出されたかを示す概念である。
- (2) 総生産物の中から、その生産に伴って生じた耐用財の価値の減耗分を差し引いた残りが所得である。

## B. 開いた経済

## 1. 国内概念と国民概念

- a. 領土内の経済活動（非居住者の活動を含む）を表すのが国内概念である。
- b. 居住者の経済活動（領土外における活動を含む）を表すのが国民概念である。

## 2. 国民可処分所得

- a. 経済主体間の取引には、反対給付のない移転取引がある。
- b. 国民所得に、国際間移転収入、支出を加減したものが国民可処分所得である。

## 参考文献

John R. Hicks (1952) *The Social Framework: An Introduction to Economics*. Oxford: Clarendon Press. 2nd edition. (酒井正三郎訳『経済の社会的構造』東京：同文館，第2版，昭和29年，第4版，昭和47年)